

＜一般財団法人雇用開発センター調べ＞

今春卒業学生の正規社員内定7割、非正規就労・留年やむなし2割（注1）**海外勤務意向者で正規内定8割、非意向者では6割**（注2）

「学生の就労見通しと生活に関するアンケート」結果速報

注1：結果数値は短大、専門学校～四年制大学学部、院生の今春就職希望者ベース 注2：志望先ではないが正規社員で内定した割合

雇用職業情報を提供している一般財団法人雇用開発センター（千代田区 代表理事 井上英紀）では、大学～短大・専門学校を含む“多様な学生”の卒業直前（2月）の内定等、就職見通しを、就職活動、就労への意識や生活態度と関連付けて調査しました。（財団法人雇用開発センターは内閣府の認可を得て、本年1月、一般財団法人に移行しました。）

雇用開発センターでは、サイト「ひらくナビ20」を通じ若年就労者に対する多様な雇用職業情報を提供する他、冊子「自分で動く就職」を通して学生の主体的、能動的な就職活動を提案しています。

＜調査結果の概要＞

今春卒業予定の71%が正規社員で内定、23%は非正規就労か留年（図-1）、**来年以降卒業予定者の4割以上が非正規就労、留年の不安（図-2）**

今春卒業予定で卒業後就労を希望する学生の、調査時点（2011年2月）での内定等の見通しは、正規社員での内定を得ている学生の割合は71%（男性75%、女性68%）でした。また、23%は卒業後「非正規社員もやむを得ない」または「留年、就職浪人もやむを得ない」と答えており、特に女性においては、「非正規社員もやむを得ない」とする学生が22%（男性14%）を占めました。

この調査では今春卒業者だけではなく、来年以降卒業者にも同様の質問を行っています。その結果をみると、来年以降卒業予定者の4割以上が「非正規社員もやむを得ない」または「留年、就職浪人もやむを得ない」と答えています。こうした就職への不安も学生を早期からの就職活動に追い立てている要因になっているものと思われます。

海外勤務に前向きな学生では正規社員内定が80%強（図-3）

外国人新卒採用の事例にも見るように、企業は新卒採用に当たってグローバル化に対応した人材確保を勘案しているものと思われますが、この調査でも、学生の海外勤務への態度と内定状況との関連が窺われました。今春卒業予定の学卒後就労意向者では、海外勤務に前向き（「是非就労したい」＋「命じられれば従う」）な学生は4割で、消極的（「したくない」＋「考えられない」）な回答者が6割を占めています。

この海外勤務への姿勢と内定状況との関係を見ると、海外勤務に前向きな学生の80%強が、正規社員での内定を得ている一方で（志望通りの内定は6割）、海外勤務に消極的な学生ではこれが60%強となっており（志望通りの内定は5割）、企業の採用判断には学生の海外勤務への姿勢も斟酌されていることが窺われます。

「職業能力」に自信ある学生の正規社員内定は8割、自信のない学生は6割（図-4、表-1）

この調査では学生に「職業能力」に対する自己評価も設問しています。この設問では今春卒業予定者の3割が「職業能力」に自信あり（「非常に自信」＋「やや自信」）と答えています。

この回答と、内定状況との関係を見ると、「職業能力」に自信があると回答した学生の正規社員での内定は8割であるのに対して、自信がないと回答した学生の正規社員内定は6割に留まっています。

「職業能力への自信」は内定を得た事が、その意識形成に寄与していることも考えられますが、就職の準備行動の内容を聞いた設問では「学校での専攻、専門に関する科目」や「語学力」で、自信のある層の回答が多く、逆に自信のない層で「PCの操作」や「履歴書の書き方」が多くなっており、就職への備え方にも違いがある事が示されています。

「就職試験対策」では補えない就職への姿勢や生活態度（図-5）

この他、内定状況と学生生活での重点とに関する設問との関係を見ると、「アルバイト中心の生活」「学業中心の生活」また「サークルや趣味の活動中心」と答えた学生では70%強が正規社員での内定をしているのに対して、「いずれにも力を注がなかった」学生では54%に止まっています。

内定状況と、海外勤務への姿勢と職業能力への自信、就職準備内容に関する回答から、企業の内定者選抜にあつては、いわゆる就職試験マニュアル等の「就職試験対策」では補えない、学生の就職への姿勢や日常生活の態度も評価されていることが窺われました。

この調査結果については、さらに詳細な集計を行った上で報告書に取りまとめ、公表する予定です。

.....
<調査概要>

対象者条件:20~25歳(2011年4月1日現在)で、現在「学生」(大学・大学院・短大・専修学校含む)であること
現在就学している学校卒業後の進路が「就労」(正規・非正規含む)であること

有効回収数:男 535、女585 計1,120人 (内、今春卒業者:男 197 女 226 計 423人)

調査実施時期:2011年2月17日~25日

調査エリア:全国

調査方法:インターネット調査

調査パネル:Ipsos 日本統計調査 j-panelを使用

なお、一般財団法人雇用開発センターでは、一昨年度も学生を含む各年代の「就労見通しと将来の暮らしに関するアンケート」を実施し、この結果要旨をサイトで紹介しておりますので、本件と合わせてご参照ください。

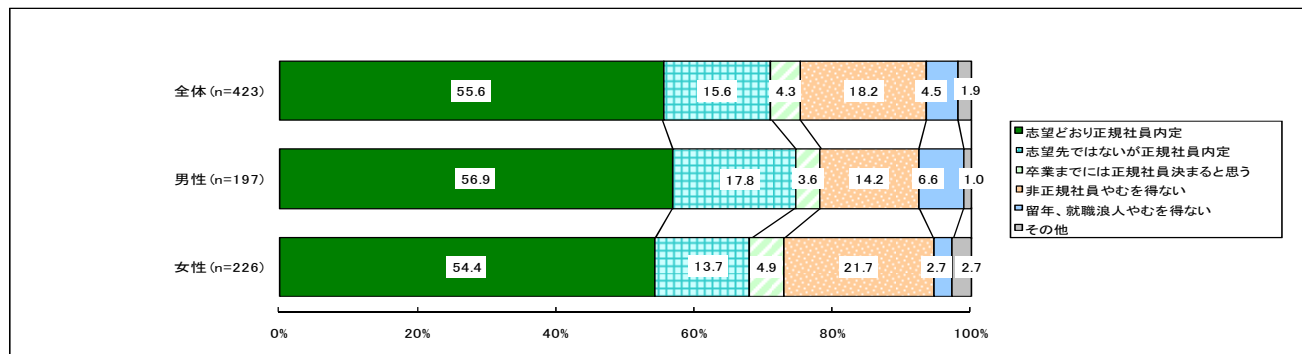
アドレス(<http://www.earc.or.jp/release/20100726.html>)

<本件のお問い合わせ先等>

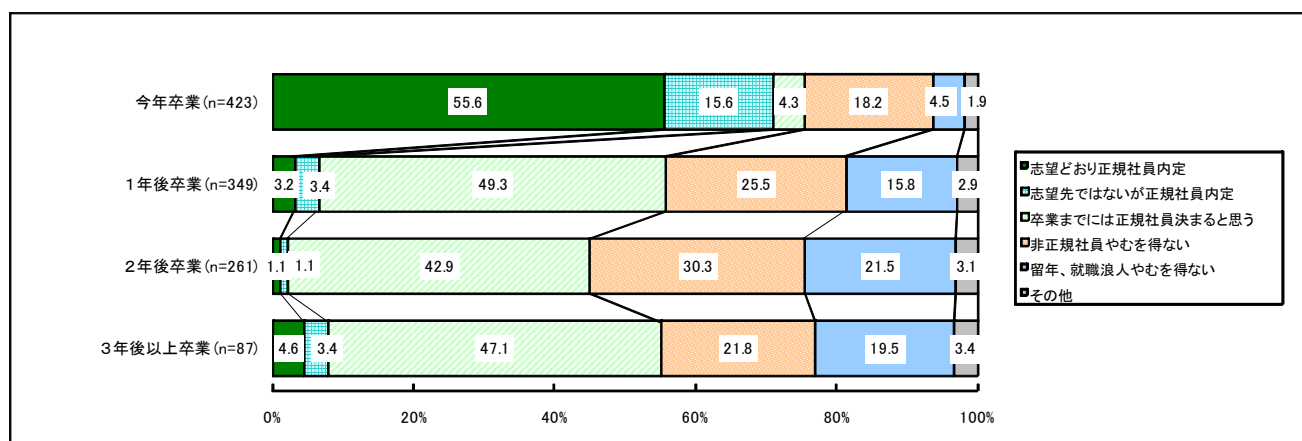
一般財団法人 雇用開発センター 担当:相澤、島村、白川
住所:東京都千代田区内神田1丁目9番地12号 興亜第2ビル4階
TEL:03-5282-3350 e-mail:kouhou@earc.or.jp

<別紙>

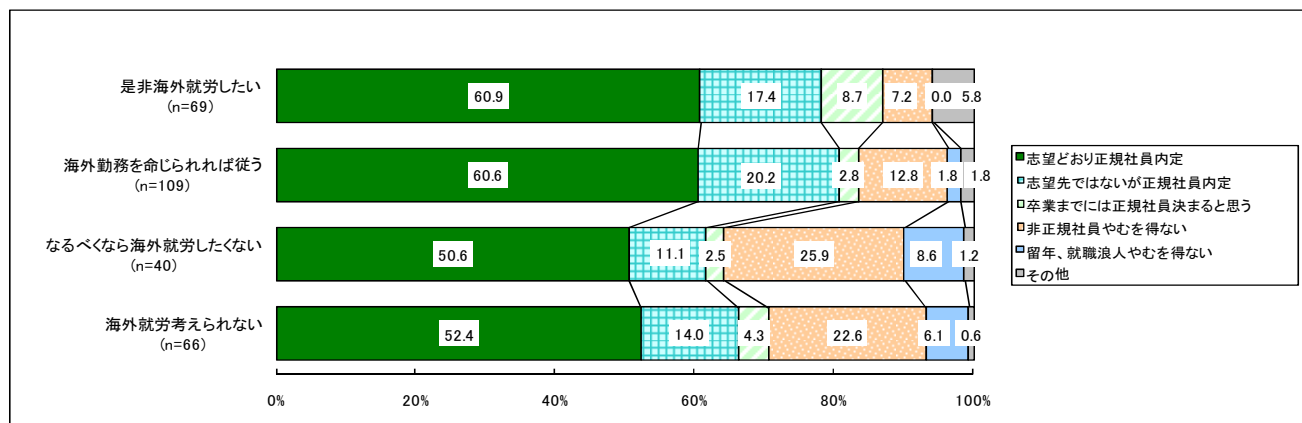
図一 1 内定の見通し



図一 2 卒業時期別、内定見通し (この図のみ全体ベース/これ以外は今春卒業者ベース)



図一 3 海外勤務への意識と内定見通し



図一 4 職業能力の自信と内定状況

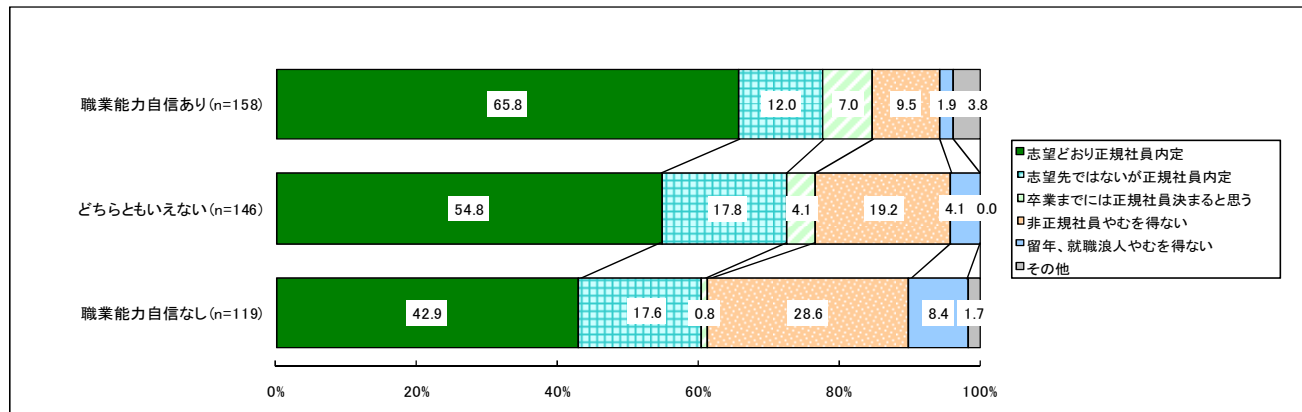


図-5 学生生活と内定状況

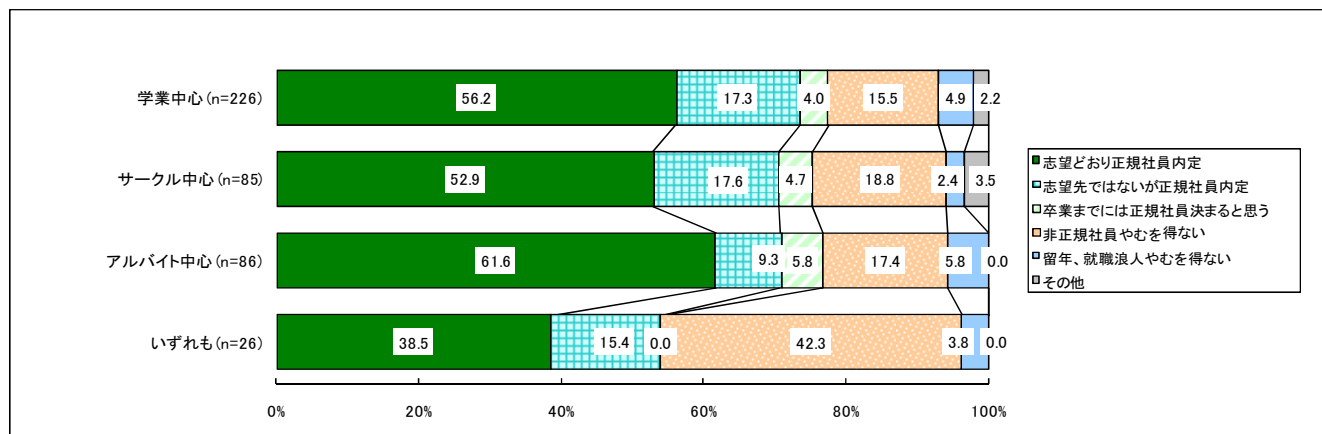


表-1 職業能力の自信に関する回答別就職準備内容

	n	学校での専攻、専門に関する科目	一般常識	適正診断対策	語学力	秘書検定	語学検定	ビジネスマナー	ITに関する知識	パソコンの操作(メール、ワード、エクセル等)	面接の受け方、ノウハウ	履歴書の書き方	就職のための学外のセミナーへ参加
		職業能力自信あり	423	421	48.7	15.8	14.4	5.2	5.7	13.0	15.1	23.6	35.9
職業能力自信あり	158	51.9	50.6	18.4	18.4	5.1	8.9	13.9	15.8	20.9	34.2	39.9	15.8
どちらともいえない	146	34.2	52.1	15.1	10.3	4.1	3.4	15.8	15.1	23.3	38.4	37.7	13.0
職業能力自信なし	119	38.7	42.0	13.4	14.3	6.7	4.2	8.4	14.3	27.7	35.3	43.7	13.4